

# 主体的に学び合う児童の育成

—ICTを効果的に活用した個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指して—

## 第1学年 国語科



よんで たしかめよう  
「うみの かくれんぼ」



## ポイント1

# 児童の実態に合わせた必要感のある課題設定

といをもとう



もくひょう



ゴール



「つぼみ」の活動を振り返り、学習計画を考える。

文章の中の重要な語や文を考えて選び出す。

どんなきものがかくれているんだろう…  
どんなかくれかたをするのかな…

文の構成を理解し、いきものかくれんぼカードを作ろう。  
(あつめたかくれんぼでカードゲームをしよう。)

子どもたちが考えてみたい、やってみたいという目標を設定し、**単元のゴールや学習過程**を共有する。



## ポイント2

# 対話や気付きの質を高める工夫



【並行読書】

図書室から集めた「かくれる」生き物について並行読書をした。お気に入りの生き物を選び、どうして選んだのか説明する自由交流をし、対話を深めた。また、同じ生き物でも選んだ理由が違うことについても気付かせ単元のゴールに結び付けた。



作ったカードのおすすめポイントを紹介することで他の人のカードを参考に、良いところを自分に生かそうとした。

【作ったカードを紹介】



問い合わせ一つ、答えが三つあるよ！

文章の構成について教材の文と自分の書いた文を比較して、いきものカードを見直すことができた。

【文章の構成】

## ポイント3

# 次の学びに生かす振り返り



### 【休み時間に遊ぶ】



言葉のパレットを活用し、「言葉の宝箱」の言葉や、わくわくワードを使ってカードづくりで良いところを伝えることができた。

### 【言葉のパレット】



学んだことや気付きを  
次の学びや実生活に生かす。

完成したカードを手に取ると、子どもたちは遊んでみたいという思いを持ち、作ったカードで遊んだ。学習したことが生活に生きることを実感し、またやってみたいという学習に向かう態度が高まった。

(他の単元でも子どもも考えたいことや、やってみたいことが見付かるよう、終末に感想を書くなど、振り返りの時間を設定した。)

### 【かくれんぼカード】